

平成 27 年度第 1 回文系チャレンジ講座を実施しました

平成 27 年度第 1 回文系チャレンジ講座が、平成 27 年 6 月 17 日、「子育て支援に見る「地域」」をテーマとして、大分大学経済学部の大木元美琴先生によって行われました。

遠隔配信された大分^{おぎのだい}雄城台・大分^{あじむ}鶴崎・安心院・日田・大分商業・高田・国東・別府青山 翔青・大分西・三重総合・臼杵の 11 校(250 名)と、来学受講に由布高校(12 名)を迎え 262 名の高校生が受講しました。

大木元先生は、講座の前に受講生に「近年、子育て支援は、重要な政策課題の一つになっています。効果的な子育て支援を考えるには様々なアプローチがありますが、ここで注目するのは「地域」という視点です。子育て



は生活に密着した行為ですから、人々が暮らす地域の条件によって、求められる支援のあり方は異なるはずです。たとえば、大都市と地方農村では、働き方や家族、ライフスタイルなどに違いがあり、必要とされる子育て支援のあり方にも影響を与えているのです。講義では、地域の特性に即した子育て支援を考えるための視点を学びます。」と、メッセージを送りました。

講座では、社会問題としての「保育所待機児童」について、「なぜ都市部で待機児童が増加をしているのか」という問いを受講生に質問をし、受講生に子育て支援の現状について客観的に考えさせ、それを発表する方法で受講生の興味関心を引き出そうとしました。受講生は日頃他校生と授業を受けることはないためか、他校生のように興味津々でした。先生からのヒントを参考しながら、受講生から「人口が多く、保育園が不足している」「働く女性が多い」「核家族が多い」など意見が出され、先生はその意見を尊重しながらスライドでグラフや地図を駆使して原因に迫ろうとしました。



そして、職住分離と長時間通勤という都市の実態を提示しました。受講生は、先生の説明に目と耳を集中させ、理解ができたようです。受講生に考える力と資料を分析する力を身につけさせる貴重な 1 時間の講座になりました。経済学部で地域の課題を今回は「子育て支援」という視点から見つめることで、地域のように見えてくることを教えていただきました。大学での学び方についても知ることができました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(99%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(99%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(99%)という高い評価でした。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(94%)、「映像はよく見えた」(90%)という結果がでました。受講生の具体的な声として「社会事象のからくりがわかった」、「少子化であるが、子どもの養育環境をどのように整えるか難しい問題だと思った」、「子育て支援が、地域の活性化に繋がることがわかった」、「大木元先生の話し方が聞き取りやすかった」、「自分たちの将来のことを具体的事例で説明してくれわかりやすかった」、「大学での学び方のきっかけが見えたようだ」など多くの感想が寄せられました。



りやすかった」、「大学での学び方のきっかけが見えたようだ」など多くの感想が寄せられました。